

東海第二発電所 設計及び工事計画認可申請書 ヒアリング確認事項整理表
【防潮堤(鋼製防護壁)の構造変更】(抜粋版:審査会合説明資料)(1/3)

2026年7月29日
日本原子力発電株式会社

：今回回答 ：別途回答 ：回答済

管理番号		対応状況	説明資料	頁	確認事項		回答日	回答内容	反映箇所
会合1	260724-1	今回回答	東海第二発電所 設計及び工事計画に係る説明資料（審査会合資料）	4, 5	2025/7/24	構造変更に至った経緯について以下を検討すること。 ・本体設工認の認可時期，変認の申請時期，不具合発生時期等の時間的要素が不足しているため，記載を充実すること。 ・審査会合で設計変更又は構造変更を実施したと誤認される記載となっているため，審査会合において当該設計変更又は構造変更の内容を説明したものであることを明示するよう適正化すること。	2026/7/29	・本体設工認の認可時期，変認の申請時期，不具合発生時期等の時期がわかるよう記載を修正した(4p)。 ・審査会合で説明した内容であることがわかるよう「・・・としたことを説明」と記載を修正した(5p)。	4p, 5p
会合2	260724-2	今回回答		8	2025/7/24	STEP4の実施概要について，STEP3の位置付けが「構造成立性の見通しを確認した段階」であることを説明すること。	2026/7/29	STEP3は構造成立性の見通し評価の位置付けであることがわかるよう，耐震評価及び耐津波評価の実施概要欄に「STEP3（構造成立性検討）では，変更した構造の成立性の見通しを得るため，」と記載した。	10p, 20p
会合3	260724-3	今回回答		9等	2025/7/24	解析モデルの柱書きのうち，「解析モデルはSTEP3と同様」との記載について，解析モデルの概要を補足し，当該記載のみで内容が理解できるよう記載を充実すること。	2026/7/29	解析概要を補足するため「耐震評価における解析モデルはSTEP3と同様，２次元F E M及び３次元モデルから成る」と追記した。	11p
会合4	260724-4	今回回答		8等	2025/7/24	「既工認」との記載について，用語の説明が不足しているため，説明を補足するなど記載を適正化すること。	2026/7/29	既工認の定義を「注記）※ 平成30年10月18日付け原規規発第1810181号にて認可された工事計画」と記載した。	8p
会合5	260724-5	今回回答		9	2025/7/24	・鳥瞰図や構造図を用いて，防潮堤（鋼製防護壁）の構造概要図を追加すること。 ・「基礎天端の変位時刻歴を入力」の出力位置を２次元F E Mモデル（鋼製防護壁基礎）の断面図に示すこと。	2026/7/29	・防潮堤（鋼製防護壁）における既工認からの構造変更がわかるよう，鳥瞰図を記載した。 ・２次元F E Mモデルにおける基礎天端の変位時刻歴の出力位置を図に示した。	8p, 9p
会合6	260724-6	今回回答		10	2025/7/24	基準地震動に関する注記※1について，全波（12波）の内訳が明確となるよう説明を充実すること。	2026/7/29	注釈にて「※1 S _s -D1については水平・上下の位相反転（計4波）を，S _s -31については水平の位相反転（計2波）を考慮する」旨を記載した。	13p
会合7	260724-7	今回回答		10	2025/7/24	STEP3の地盤ケースに記載している「最厳ケース」との記載について，選定の考え方を補足するなど記載を適正化すること。	2026/7/29	最厳ケースに対して注釈で，「※3 周辺地盤の地盤改良体（薬液注入）の効果や既工認の評価結果を参照し，防潮堤（鋼製防護壁）の耐震評価が最も厳しくなると想定したケース」と記載した。	13p
会合8	260724-8	今回回答		－	2025/7/24	評価結果に至るプロセスについて，地震応答解析から断面照査に至る流れを平易に示した資料を追加すること。	2026/7/29	評価結果に至るプロセスがわかるよう，耐震評価及び耐津波評価に係る評価フローを追加した。	12p, 22p
会合9	260724-9	今回回答		14	2025/7/24	接合部の説明性向上のため，補足28 1章の1-105p及び1-107pの図を活用し，接合部における断面力及び各部材の負担範囲に関する説明の充実を検討すること。	2026/7/29	接合部における評価において，接合部に発生する断面力や各部材が負担する断面力に係る概念図を添付し記載を充実化した。	18p
会合10	260724-10	今回回答		17	2025/7/24	耐津波評価の２次元FEMモデル図において，鋼管杭が識別できるよう図を適正化すること。	2026/7/29	鋼管杭が識別できるよう，２次元F E Mモデル図を修正した。	21p
会合11	260724-11	今回回答		20等	2025/7/24	評価結果における照査値について，設計上考慮している保守性又は裕度を説明すること。	2026/7/29	工認設計モデルにおける耐津波評価結果において，設計上考慮している保守性について注意書きで「工認設計モデルにおいては，残置される地中連続壁の質量を設計荷重として保守的に考慮している」旨を記載した。	25p
会合12	260724-12	今回回答		20, 66	2025/7/24	STEP3資料とSTEP4資料に記載している照査値について，差異が生じている理由を説明すること。	2026/7/29	頂版鉄筋コンクリートの照査値の相違は，STEP4の耐震評価結果により配筋の仕様が変更となったためであり，今回新たに照査値を算定したことによる。 巻き立て鉄筋コンクリートの照査値の違いは，STEP3で本来，最大照査値箇所を参照すべきものを最大断面力発生箇所の照査値を参照し記載していたためである（参照先誤り）。	－

■: 今回回答 □: 別途回答 ■: 回答済

管理番号		対応状況	説明資料	頁	確認事項		回答日	回答内容	反映箇所
会合13	260724-13	今回回答	東海第二発電所 設計及び工事計画に係る説明資料（審査会合資料）	24	2025/7/24	・残置影響評価の実施概要における柱書きのうち「STEP4では工認設計モデルの評価結果を踏まえ」との記載について、工認設計モデルによる全部位を対象とした網羅的な評価結果を踏まえていることを示すなどして、STEP3との相違が明確となるよう記載を工夫すること。 ・残置影響評価モデルに関する※2の記載について、残置影響評価モデルの位置付け及び考え方が明確となるよう適正化すること。	2026/7/29	・残置影響評価モデルでの耐震評価において、評価が網羅的になされていることがわかるよう記載を「STEP4では工認設計モデルによる詳細設計の評価結果を踏まえ、評価対象部位毎に最も厳しい結果となる地震動と地盤ケースを組合せを選定し、全ての部位の照査を実施することで、地中連続壁部の残置による構造健全性への影響を網羅的に評価する」と修正した。 ・残置影響評価モデルの定義に係る記載を注意書きにて「※健全な地中連続壁部を仮定して最大限の発生断面力を算定し、中実鉄筋コンクリートのみで構造を成立させる保守的な設計モデル」に修正した。	31p
会合14	260724-14	今回回答		25	2025/7/24	残置影響評価（耐津波）の実施概要におけるSTEP4の柱書きについて、最も厳しい結果となる津波及び地盤ケースに加え、地盤バネの選定に関する記載を充実すること。	2026/7/29	残置影響評価モデルでの耐津波評価において、最も厳しい結果となる津波及び地盤ケースに加え、地盤バネの選定に関する記載を「STEP4では工認設計モデルによる詳細設計の評価結果を踏まえ、評価対象部位毎に最も厳しい結果となる評価対象津波と地盤バネ／地盤ケースの組合せを選定し、全ての部位の照査を実施することで、地中連続壁部の残置による構造健全性への影響を網羅的に評価する」と記載した。	32p
会合15	260724-15	今回回答		26	2025/7/24	残置影響評価モデルに関する柱書きについて、部分欠損モデルを含めた説明となるよう記載を適正化すること。	2026/7/29	部分欠損モデルを含めた記載となるよう「また、地中連続壁部の強度・剛性の不均一性を網羅的に評価することを目的として、中実鉄筋コンクリートの曲げモーメントが概ね最大となる位置に強度・剛性低下（健全部と地盤の境界）を想定した評価（部分欠損モデルによる評価）も行う（STEP3と同じ）」と記載を修正した。	34p
会合16	260724-16	今回回答		27	2025/7/24	残置影響評価における地盤ケースの選定に関する「評価対象部位毎に最大照査値となる地盤ケースを網羅的に実施」との記載について、全部位に対して地盤ケース①～⑥を対象に評価していることが明確となるよう適正化すること。	2026/7/29	鋼製防護壁基礎について「全地盤バネを網羅的に実施」、鋼製防護壁については「照査値が最大となる地盤バネを選定」、接合部については「重畳時における全地盤バネを網羅的に実施」、地盤については「全地盤ケースを網羅的に実施」と明確に記載した。	35p
会合17	260724-17	今回回答		28	2025/7/24	「残置影響評価（耐震・耐津波）における評価対象部位一覧及びSTEP3との比較」について、備考欄の（○）は赤で記載すること。	2026/7/29	備考欄の（○）を赤に修正した。	36p
会合18	260724-18	今回回答		—	2025/7/24	接合部及び止水機構に係る評価について、COM3解析、水密ゴム解析及び漂流物衝突解析等の実施内容及び評価結果を簡潔に記載すること。	2026/7/29	本編に接合部に対する3次元材料非線形解析（COM3）を用いたアンカーボルトの評価結果及び止水機構に係る各部位の評価結果について追加した。	29p, 41p, 42p
会合19	260724-19	今回回答		32	2025/7/24	地中連続壁部の残置影響評価（耐津波）の止水機構の評価結果に記載している参考(4)は、参考(2)に修正すること。	2026/7/29	止水機構の評価結果は本編に記載することとしたため、参考(4)の呼び込みは削除し、「p41参照」と修正した。	40p
会合20	260724-20	今回回答		33	2025/7/24	まとめの記載について、「基準地震動Ss」及び「津波時・重畳時」の表現が整合するよう適正化すること。	2026/7/29	「津波時及び余震時に作用する荷重」を「基準津波及び敷地に遡上する津波の荷重、並びにこれらと余震の重畳を考慮した荷重」に適正化した。	43p

東海第二発電所 設計及び工事計画認可申請書 ヒアリング確認事項整理表
【防潮堤(鋼製防護壁)の構造変更】(抜粋版:審査会合説明資料)(3/3)

2026年7月29日
日本原子力発電株式会社

■: 今回回答 □: 別途回答 ■: 回答済

管理番号		対応状況	説明資料	頁	確認事項		回答日	回答内容	反映箇所
会合21	260724-21	今回回答	東海第二発電所 設計及び工事計画に係る説明資料（審査会合資料）	33	2025/7/24	・まとめの記載において、「重畳時」の内容が明確となるよう「余震荷重との重畳」等の記載に適正化すること ・残置影響評価のまとめについて、残置した地中連続壁部に起因して想定される不具合事象及びその将来的な影響の検討結果も踏まえて問題ないことを確認した旨を記載するとともに、当該検討プロセスに関する情報を参考資料等に記載すること。	2026/7/29	・重畳時の荷重について、「基準津波及び敷地に遡上する津波の荷重、並びにこれらと余震の重畳を考慮した荷重」とわかりやすく修正した(43p)。 ・残置した地中連続壁部に起因して想定される不具合事象及びその将来的な影響の検討結果のプロセスに関する資料を追加した。また、まとめに誘発事象を整理した上でその影響を設計上保守的に考慮した評価を行った旨を記載した(33p, 43p)。	33p, 43p
会合22	260724-22	今回回答		35	2025/7/24	工事管理の改善と再発防止に向けた取組みについて以下を検討すること。 ・「発電所大での取組み」との記載について、「発電所全体での取組み」等の一般的な表現となるよう適正化すること。 ・「現場作業員へＣＲ活動の目的・方法を周知する」に関して、対象が協力会社全体であること及び定期的に実施する方針であることについて、記載を充実すること	2026/7/29	・「発電所大での取組み」を「発電所全体での取組み」に適正化した。 ・「現場作業員へＣＲ活動の目的・方法を周知する」については、対象が協力会社全体であること及び定期的に実施する方針であることがわかるよう「全ての現場作業員へＣＲ活動の目的・方法を定期的に周知する」に記載を修正した。	45p
会合23	260724-23	今回回答		35-37	2025/7/24	参考(1)から(3)は本編資料への反映を検討すること。	2026/7/29	参考(1)工事管理の改善と再発防止に向けた取組み」については、本編での扱いとした。	26p, 41p, 42p, 45p
会合24	260724-24	今回回答		37	2025/7/24	SD685のひずみレベルに係る詳細検討の柱書きにおける「頂版鉄筋コンクリート上面のひずみ」との記載について、鉄筋のひずみであることが明確となるよう記載すること。	2026/7/29	「頂版鉄筋コンクリート上面の鉄筋ひずみ」と記載を修正した。	26p
会合25	260724-25	今回回答		38以降	2025/7/24	参考(4)について、資料の位置付け及び掲載目的が分かる概要資料を追加すること。	2026/7/29	参考(1)で、冒頭に不具合事象発生から構造変更に至る経緯について時系列とともに概要を記載した。	47p